

消化器外科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	実臨床データを用いた膵癌術後補助化学療法の至適投与期間に関する検討 (2020年度 日本膵臓学会プロジェクト研究)
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 道勇 学
担当科等	消化器外科
研究責任者	(職名) 講師 (氏名) 深見保之
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学 教授 江口英利
研究の意義・目的	現在実施されている膵癌症例における S-1 による術後補助療法の至適な開始時期および投与期間は不明です。そこで今回、膵癌切除後の術後補助療法 S-1 術後補助療法の施行方法(開始時期および投与期間)と予後との関連性を明らかにします。
対象となる患者さん	当該施設において 2014 年 1 月から 2018 年 12 月までの 5 年間に、外科的に切除され、切除標本の病理組織診断にて通常型膵癌と診断され、S-1 単独の術後補助療法を施行された患者さん。
研究の方法	既存の診療録情報を用いた、多施設共同後方視的観察研究です。 本邦全国調査にて膵癌切除例の S-1 術後補助療法の施行状況および予後情報を集め、最も良好な予後が得られている S-1 術後補助療法の施行方法を同定します。 詳しい研究計画及び研究の方法に関する資料を入手や閲覧することができます。ご希望の場合は、下記問い合わせ先にご連絡下さい。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2024 年 3 月 31 日
研究に用いる試料・情報	診療情報から、年齢、性別、手術情報等を使用します。 血液検査結果、術前治療の有無、手術日、術式、手術時間、出血量、術後合併症、病理所見、S-1 術後補助療法期間・内服方法・投与量、予後。
外部への試料・情報の提供	匿名化した情報を患者調査票を用いて提供します。
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2023 年 3 月 31 日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。

問い合わせ先

愛知医科大学

医学部外科学講座（消化器外科）

担当者：（職名）講師 （氏名）深見保之

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

電話 0561-62-3311（内線 22121）